

NPO 法人霞ヶ浦アカデミー

事務所 茨城県行方市浜 370 番地 1

ホームページ <http://www.k-academy.sakura.ne.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/kasumigauraAC/>

ブログ http://blog.livedoor.jp/kasumigaura_ac/

【海夫】

潮の香りをほのかに残すここ霞ヶ浦にもかつては多くの海の民がいた。海に寄り添い、潮の流れとともに暮らしていた人たちに思いを寄せて、今生きる霞ヶ浦の海夫たらんとす。

霞ヶ浦の漁業を体験 ベトナムの若者約20人が参加

4/29
～
4/30

NPO 法人霞ヶ浦アカデミーは、玉造ロータリークラブの協賛のもとで、日越漁村農村交流会を実施した。四月二十九日～三〇日の一泊二日で行い、都内などに暮らすベトナム人約二十人が参加した。



一日目は「田植え」「カヌー」の二グループに分かれて霞ヶ浦を体験。二日目は、漁船に乗って霞ヶ浦の魚を確認し、ほうれん草の収穫体験、タカノフーズの納豆工場見学を行った。

田植えは行方市でコメ、トマト等を栽培する高柳秀樹さんに、カヌーは坂東秀樹さんにご協力ご指導いただいた。漁船に乗り、漁業を体験したのは参加者のうち五名。霞ヶ浦の魚は、ほとんどがアメリカナマズで、産業魚がほとんど捕れていない現状に驚いていた。たくさんさんのアメリカナマズを見て「捨てるの？もったいない。」という意見や「ベトナムではナマズを食べるけど日本では食べないのが不思議。」などの声が上がった。

本事業は今回で四回目、これまで栗の収穫や稲刈り、地元の方との交流を重ねてきた。参加するベトナム人はいずれも日本企業で働いており、その多くはIT、コンサルティング、建築業界だ。

参加者は、日本に残って働きたい人と、ベトナムに戻り母国で働きたい人にわかれる。これからのベトナムを担う人材が、参加者の中から現れ、日本は湖とどのように向き合ってきたか知っていることは大きいのではないかと思う。これまでの日本の環境政策を参加者がそれぞれ評価し、またこれからの霞ヶ浦

との向き合い方にも触れてほしいと思う。次回は秋に開催を予定している。



参加者からお礼の便り

体験お疲れ様でした！前は農作業を聞いたりしてイメージを持っていたけど、その場に行くと体験してみると、違った事を感じる事もあるかと思えます。実際に活動してみることが、その楽しさややりがいを感じる事ができました。2日間有意義な体験をさせていただきました。楽しかったです。今度もよろしくお願ひします。(LINH TRANG)

連載2「水」商売の思い出

課長投げ飛ばし事件！

木村 陽一

五、稲が枯れた

前回に続いて昭和四十年代後半の頃の香取市（旧 佐原市）内での管水路埋設工事の現場における水田の土壌被害に触れてみたいと思います。

この工事は利根川を水源として千葉県北東部の農地に灌漑用水を供給しようとする事業の基幹施設となるもので、香取市郊外の用水ポンプ場と北総台地上に設置される中継ポンプ場間約4km、高低差約10mに及ぶ管水路で通水量は毎秒約8m³でした。管の種類はポンプ急停止時に生ずる水撃圧（水力発電所の管路などではしばしば発生する衝撃波のような圧力）に耐え、地盤が軟弱なため管路の予期せぬ不等沈下への順応性などから鋼管が採用されていました。

埋設管水路といっても公道などの地下に埋設されることの多い上下水道の場合と異なり、灌漑用水の場合は民有の水田部分の地下に土被り2～3メートル程度で埋設して、埋め戻し後には水田として利用できることを目的に、用地に関しては買収せずに将来の管路の維持管理等に当たったの再掘削なども考慮して地上権設定という方式を採用していました。

香取市南部、利根川の支川小野川



図1. 旧佐原市の位置

沿いの沖積低地は古代の香取流れ海の跡で地質条件はシルト質の粘土や細砂の間にヨシ、真菰などが完全に土にならなくなっていない状態で存在している「ケ土」と呼ばれる腐植土層が介在していて、当然軟弱かつ地下水位も高いという悪条件でした。管埋設工事に当たっては素掘りの開削を行っても地盤支持力が弱くノリ崩れを起こしたり掘削床で盤膨れが発生して開削部が一夜にして崩壊してしまう恐れがあつて、地盤改良工法を併用して地盤の強度を上げてからでないと開削できないところが多くありました。

このような土質条件は利根川の下流部の低地においては過去の河川改修工事や土地改良工事で「お化け丁場」などと呼ばれて非常に厄介な地盤条件であつたのですが、当時の我々は事業の早期完成と集中的に投入される予算の執行という宿命下で怖いもの知らずとでも言いましょうかケースバイケースで何とかなるだろうといった安易な判断のもとで事業をやっていました。まさに走る前

に考えるのではなく走ってから、あるいは走りながら考えるといった状況でした。

地盤改良は種々ある工法の中から地中に生石灰の柱を打ち込み生石灰と地盤中の地下水の化学反応による吸水、膨張、発熱作用で地盤を横方向に圧密して地盤の強度を上げるという工法を採用しました。

本来は着工時点で工法は決定されていて入札にかけるのが本筋でしたが、工事着工段階では工法の検討が継続中であつた後に東京湾の埋め立て地における下水道函渠工事の事例や施工業者の意見等も参考に決定し、設計変更の形をとって契約変更をしたようなありさまでした。また地下水位が非常に高いため開削に際してはウエルポイント排水工法を併用しドライワークが可能な状態にしないと鋼管の接手部の現場溶接作業ができない状態でした。

施工に際しては管路埋設部の地上権設定部分のほかに水田耕土のはぎ取ったものや掘削土の仮置き場と鋼管や施工機材資材搬入のための仮設道路などの工用地が必要ですから工事期間は地権者から借地して管理設後に埋め戻し、表土の復旧などの事後処理をして地権者の確認と返還承諾後に、水稲作付けに入るといって流れて進めてきたのですが、いざ作付けをしてみると稲の枯死や生育不全による減収という事態を招くことになってしまいました。また、地下水排水の影響で高含水の「ケ土」層が工事範囲を超えて広範囲にわたって収縮し田面が不当沈下して春先からの水稲作付けに影

響が出るといった問題も生じてしまいました。農業土木の技術者としては先輩格の上司や同僚も、この地区での経験はなく、施工前の情報も不十分な中で、地元のための事業が、工事段階で地元にも多大な迷惑をかけてしまうという深刻な事態となっていました。

直接被害の出た地権者や地元の区長さん等からも早急な対策を強く要請されて用地担当の職員と共に設計施工関係の我々も地元周りをして沈下部分の水田には山砂を搬入して不陸整正を行うなどの応急処理をして作付けしていただき、その後の推移をみて調査や対策を継続するということが何とか地元関係者の同意が得られたのですが問題はその後さらに拡大してゆきました。

そのような中で田植えから二か月ほどたった時期にその年の秋以降に着工予定の地区の地元説明会があり本来は用地担当課が主役なのですが設計、工事関係の我々も説明会に同席することになりました。これは現状では工事に起因する被害が地元関係者の最大の関心事であったこと、新規の用水事業の恩恵をあまり受けない地区でもあり、むしろ迷惑工事という認識が生じていたことなどを情報としてつかんでいた用地課のK課長やA係長の発案で、技術担当の我々を同席させ被害対策を十分にするという約束をすることで同意に向けて事業実施者の誠意を見せたいという必死の考えもあったらしいのです。しかし参加していた地権者の中には前年度の被害地区の土地所有者が何人かいて、その人たちからの強硬なつるし上げの場とな

ってしまい一時は收拾がつかなくなるほどでした。

已む無く技術担当の我々がスケープゴートになって頭を下げ、土地改良区役員の計らいもあって何とか着工の了解が得られたのです。しかし、この一件は少なくとも私自身には何か割り切れないしこりの様になって心のうちに残ってしまいました。この後のことについては七節で書くことにします。

六、土壌被害の処理

水稻の被害については事務所内でも原因究明と対策のための会議が度々開かれたりして施工段階での手違いか、あるいは土壌中に水稻の生育に障害となる塩分とか酸性土壌が含まれていたのか、地盤改良工事で使用した生石灰が原因となっていたのかなどの議論がされたり、農業関係の専門家の意見などにも聞いてみたのですが決定的な原因がつかめないまま時間が経過してお盆過ぎには収穫期を迎えることになりました。

一方、事務所でも土壌のpH計を購入して現地

あるにもかかわらず、「土木の方たちはその辺への配慮がなく、荒っぽい仕事をしたのがこの原因ですね」という耳の痛い指摘をいただくことになりました。

この辺のことについて、土壌被害や対策については先輩同僚たちもほとんど予備知識もなかったようでまさに「目から鱗」の経験となったようでした。

結局土壌障害の回復には二、三年の期間を要することになって、さらに台地上部の畑の部分の工事でも仮設工事用道路として使用した後が道路の荷重によって締め固められ排水不良や床土の固化で大根、甘藷などの根菜類の生育障害を招く事態も発生して、これに怒った農家の方が出荷できない寸詰まりの大根を事務所の庭にまき散らすといった騒ぎにも発展してしまいました。これについてはY先生や千葉県の農業試験場の助言で試行錯誤の結果1m以上の深部まで耕起できる機械を使って土壌を柔らかくすることで対処できました。

七、課長投げ飛ばし事件の顛末

先のスケープゴート問題については、事務所の所長をはじめとする技術系、用地系の管理職がどこまで絡んでいたのかは定かではありません。前年初夏の説明会において激しくつるし上げられるとは予想せずに説明会に出た私も軽率ではあったのですが、通常ではあまり交流のない用地部門と技術部門の縦割りの壁を少しでも取り払いたいという私の意図もあって日ごろから業務上に限らず務めて交流していた中で、私の意図とは裏腹に利用

【葦船日記】

二月十九日、本年も霞ヶ浦に葦船を浮かべることに成功した。昨年より刈り取った葦の総量が少なかったからか、子ども二人で乗ると若干浸水した。葦船づくりに参加したのは、つくば市、行方市の親子。刈り取りを十二月に行い、一月に刈り取った葦から船のパーツを作った。二月には船を完成させて霞ヶ浦に進水させた。「来年は大きい船を」と夢を語った。三月十七日に葦の生えている圃場をきれいに全て刈り取り、また新しい芽が出やすいように整備も行なっている。



調査をしてみるとおぼろげながら酸性障害とアルカリ障害が生じていることがつかめてきました。工事施工のための借地部分には一定率の減収補償も計上されていたのですがそれを大幅に超える水田も出てくるなど本格的な補償と復旧についての検討が急務となっていて、私も必死だったのでその年の十月に、東京農業大学の土壌学のY先生を

されたとか、プライドを傷つけられたという思い、さらには当時の自分の仕事に対する慢心もあって、K課長に倒しての強い不満感に近い感情を抱くようになっていたのです。

土壌被害問題の対策や見通しが見えてきた翌年の一月下旬だったと記憶しているのですが、新年会か何かの席があつて事務所の分庁舎での宴会が終わって隣接する独身寮の食堂に集まって帰宅のタクシィを待っていた時に、たまたまK課長がやってきて「あの時以来随分面倒をかけましたね」などと雑談となり特に口論とか険悪な状況ではなかったのですが一方で私としては例の一件がしこっていたため何か仕返しをしてやりたいという鬱屈した気持ちも手伝つて別れ際に「親愛の情」を込めてK課長を柔道の足払いで投げ飛ばしてしまったのです。

K課長はもんどりを打って一回転しましたが幸いに怪我もなくたまたまそばに来ていた用地課のK係長らが青くなつて私を収めにかかつてその晩は事なきを得たのでした。

理由の如何を問わず上司を投げ飛ばしたという行為は決して許されるものではありません。懲戒処分を受けることも覚悟していました。翌朝とり

あえずK課長に謝罪しましたが、K課長は日ごろの関係から投げられた理由を薄々とわかっていたようなのです。特段に根に持つことなく、むしろ私の仕事に対する姿勢と組織の板挟みといった複雑な気持ちを理解していたような対応で、昨夜の一軒を不問にしてくれました。私もK課長の懐の広さに敬服し己の軽率な行為を深く反省せざるを得ませんでした。その後K課長とともに苦労した仲間だとして良好な上下関係で付き合っていたべくことになり、K課長が中部支社管内へ異動された後に定年で退職された後まで年賀状のやり取りが続くことになりました。それにしても周りの噂というものは恐ろしいもので事務所長の耳にも入

海夫たちの霞ヶ浦（最終回） いまに生きる海夫 甲斐 博

漁業組合の誕生

霞ヶ浦四十八津は明治時代を迎え、表舞台から消える。明治6年には政府によって漁業組合準則が制定され旧来の慣行を認めつつも法の整備が進められる。1901年には明治漁業法が制定され、漁業権の「物権化」（1910）や、入会の協同組合化（1933）が盛り込まれる。霞ヶ浦では、明治初期に霞北水産組合という団体が漁獲量のとりまとめを行い明治6年か漁獲統計記録を残し、貴重な情報となっている。霞ヶ浦では1903年に大須賀津および本新島村に、翌年には大山、浮島村

つたらしく以前の地元関係者との騒音トラブルの一件もあって「奴は何をやらかすかわからない」との噂が広まってしまいました。危うく酒で一生を台無しにする瀬戸際でつくづく酒の怖さを痛感した出来事でした。この辺が結果的に足払い事件につながってしまったものと思っています。仕事などを進めるにあたって、良かれと思つての用地課との連携が意外な方向へ発展してしまつて思い通りに運ばず、一歩間違えていれば一生が台無しになりかねなかったという教訓を残した一件でした。

（次号へ続く）



生き物アカデミーの活動から

一九九九年から実施する「生き物アカデミー」も今年度で十九年目になる。問題解決型の環境教育の実践として石岡市で始まった。現在は玉造ロータリークラブの協力の元で小学生・一般参加者ふくめ十から二十名が参加する。三月十九日はプラントンの観察では顕微鏡でミジンコやアオミドロなどにピンとを



●当時小学5年生の早川くん(中央)。浜田先生(中央後)、古渡くん(右)、宮本先生(左)と定置網に入った魚を分けている。【2012年4月15日】

合わせ観察した。また魚の定期調査の網にかかったアメリカナマズの解剖も実施。膨れたお腹の中には、大きな卵を抱えていた。アメリカナマズはアメリカナマズはアメリカ、カナダ、メキシコの一部に生息する。日本においては、特定外来生物に指定されており、リリースや飼育が制限されている。ドイツやニュージーランドでは本種の持ち込みが禁止されている。食用目的で移入され、1981年霞ヶ浦にも導入されて定着し、1983年には江戸川の自然水域での増殖が確認されている。のちに利根川水域を中心に分布を拡大した。今回、定置網に入ったアメリカナマズを見たとき、その大きなお腹には、ワカサギなど定置網に入つた他の魚を食べていたのではないかと予想した。しかし予想に反して、大きな卵を抱えていた国立環境研究所のホームページによると産卵時には雄が作った岩や木の陰、土手の下の凹みや穴などに産卵する。産卵後雄が巣を守り、胸鰭で仰ぎながら水流をおこす。産仔数は推定四千から三万五千個になるといふ。参加していた小学生は、恐る恐るアメリカナマズに触れていた。参加した川又くん(小6)には「今回は解剖はしないの?」と尋ねられた。楽しかったのだろう。

生き物アカデミー 先輩からの声

土浦一高一年 早川哲人

このたびはこのような寄稿の機会を作っていただきありがとうございます。このような機会をくださり、さらに

それからの小学校生活に、霞ヶ浦で過ごす毎月第三日曜日は僕の宝物になった。個性豊かな先輩と楽しく霞ヶ浦に首までつかりながら、魚を追った。クリスマスには、浜田先生の歌を聞いてケーキを食べた。新しい魚が取れた時の気持ちは言葉では表現できない。浜田先生から、「お、これはもしかして」などという言葉を聞いたなら、魚はよくわからなくてもとにかく心が躍つたのを覚えている。霞ヶ浦で起こることはすべてが僕にとって、衝撃のオンパレードだった。楽しさの中にも、水質調査などで「環境」というものについても多く学んだ。でもやはり、小学生であつたかもしれないが、透明度の調査ではなくてクルーザーに乗っていったということのほうが印象が強い。霞ヶ浦は僕の人生での宝物になっていった。僕は、四月から高校生になった。将来は、環境と生き物を大切にしながら世界平和を作っていけるような仕事に就きたい。このテーマ

いま海夫の闘い

海夫たちが再び表舞台に登場する時代が訪れる。戦後、新国際空港、高浜入干拓、霞ヶ浦開発等の荒波が霞ヶ浦を襲う。

全国総合開発計画に位置付けられた家プロジェクトは、「国」と「いま海夫」との戦いの場に他ならなかった。水上デモ、漁船による逆水門の開鎖阻止、県庁玄関への酸欠死魚放置、県幹部との激しい交渉。高浜入干拓反対運動での漁船による国側施設襲撃。これらを通して、淡水化されたとは云え、現在の霞ヶ浦があるが、「いま海夫」たちの闘いに負うものだ。今に残る霞ヶ浦総合開発事業の影響をどのように払拭していくか。これが「いま海夫」に残された課題だ。筆者は、この最大の課題が「いま海夫」によって解決されると思う。なぜなら、海夫たちの歴史がそう教えてくれるから(終)。

生き物アカデミー出身

早川哲人くん 古渡悠太くん土浦第一高校入学おめでとう

昨年12月、生き物アカデミー出身の早川哲人くん(下妻市)から連絡があった。当時僕は高校生で早川くんは小さかった。「中学生になってなかなか参加できなくて申し訳ありません」という連絡だった。連絡をくれたときく三年生だという早川くんは、「早く終わらないかな」と言っていた。3月19日、「土浦一高!!受かりました」との連絡が入る。早川くんは高校の廊下で古渡悠太くん(行方市)と再会したという。小学生の時、毎月のように一緒に魚取りをしていた仲間が高校で再開するのもまた嬉しい。二人が充実した高校生活を過ごしてくれることを願う。おめでとう。(菊地章雄)

僕らを結び付けてくれた霞ヶ浦に何らかを還元できる大人になりたい。霞ヶ浦、ありがとう。そしてこれからもよろしく。

はあまりにも漠然としていて、まだどんな仕事か自分のしたいことにあるのかはわからない。だから、自分が地球というもののために、社会全体のために、そして霞ヶ浦のために人々に役に立つようなことができる大人になりたい。

余談ではあるが、生き物アカデミーで小学校のころ一緒に活動した古渡君と高校でまさかの再会を果たした。あまりにも偶然過ぎて、ほんとに驚いた。これからは、二人でお互いを高めあいながら将来、僕らを結び付けてくれた霞ヶ浦に何らかを還元できる大人になりたい。霞ヶ浦、ありがとう。

発行 特定非営利活動法人 霞ヶ浦アカデミー

理事長 荒井 一美

茨城県行方市浜 370-1 A-1 建築事務所内

発行日 平成二十九年 五月 二二日

問い合わせ 080-6607-1309 (事務局 菊地)